

法人名 :

秋田空港ターミナルビル 株式会社

設立年月日 昭和53年11月10日

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役社長 成田 光明	資本金	750,000千円	県出資等額及び比率	250,000千円	(33.3%)	所管部課名	観光文化スポーツ部交通政策課	
設立目的	第4次秋田県総合開発計画に基づく高速交通体系整備の一環として、激増する航空運輸需要に応えるため、大型ジェット機が就航可能な新空港の建設が進められ、これに伴い今後飛躍的に増加する航空利用者に十分対応し、また、秋田県の「空の玄関」に相応しい旅客ターミナルビルを建設し、その運営にあたる会社を設立したものである。								
事業概要	空港ターミナルビル（旅客ビル・貨物ビル）の所有賃貸及び運営管理、航空旅客・航空貨物及び航空事業者に対する役務の提供、旅行用日用雑貨及び観光土産品等の販売、広告・宣伝及び広告代理業								
関連法令、県計画	空港法、秋田県総合交通ビジョン								
役員数 (R7.7.1現在)	取締役	監査役	評議員	計	職員数 (R7.4.1現在)	正職員	出向職員	臨時・嘱託	計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤		11		35	46
	3	7	1	2		4	9		

2 法人の行動計画(令和4~7年度)

県関与のあり方	継続	経営状況	安定	取組の方向性	・安定的経営の継続 ・公益的事業の安定実施
目標	経営体质の強化を図りながら、安定的な経営基盤を確立し、十分な収益を上げる。 【目標】 売上高（百万円） R4年度：1,153、R5年度：1,228、R6年度：1,228、R7年度：1,228 空港施設の利便性やサービスの向上に努め、顧客満足度の維持・向上を図る。 【目標】 顧客満足度（pt） R4年度：75、R5年度：75、R6年度：75、R7年度：75				
取組	直営売店「あ・えーる」の新たな売れ筋商品の開拓やオリジナル商品の開発に取り組み、売上の拡大を図る。 【目標】 直営売店売上高（百万円） R4年度：529、R5年度：594、R6年度：594、R7年度：594 館内スペースの高度利用を図るため、テナントや広告主の誘致、営業活動を強化する。 貸販スペースに限りがあるため、テナント・広告主撤退時に営業活動を強化する。 市町村や企業と連携したイベントの開催や、地域住民に気軽に空港を利用してもらえるようなプロモーション活動を展開し、集客力の向上を図る。 【目標】 イベント等の開催回数 年4回 ホームページやSNSを活用し、国内外に向けて空港や周辺情報の発信を強化する。 【目標】 ツイッターの発信件数 年52回（週1回は必ず発信）				

3 財務

損益計算書 (単位:千円)		
区分	令和5年度	令和6年度
売上高	1,394,178	1,510,934
売上原価	509,348	553,385
売上総利益	884,830	957,549
販売費及び一般管理費	667,391	682,851
人件費（売上原価含む）	192,072	196,249
営業利益（損失）	217,439	274,698
営業外収益	27,961	4,853
営業外費用		812
経常利益（損失）	244,588	279,551
特別利益	21,302	2,200
特別損失	40,631	14,475
法人税、住民税・事業税	70,285	81,556
当期純利益（損失）	154,974	185,720

貸借対照表 (単位:千円)		
区分	令和5年度	令和6年度
流動資産	1,750,482	1,352,214
固定資産	2,275,474	3,029,163
資産計	4,025,956	4,381,377
流動負債	311,793	489,916
短期借入金		
固定負債	147,143	146,221
長期借入金		
負債計	458,936	636,137
資本金	750,000	750,000
利益剰余金等	2,817,020	2,995,239
純資産計	3,567,020	3,745,239
負債・純資産計	4,025,956	4,381,376

<主な経営指標>			
項目	令和5年度	令和6年度	増減
経常収支比率 (経常収益 ÷ 経常費用)	120.8%	122.6%	+ 1.8
流動比率 (流動資産 ÷ 流動負債)	561.4%	276.0%	285.4
自己資本比率 (純資産計 ÷ 負債・純資産計)	88.6%	85.5%	3.1
有利子負債比率 (有利子負債 ÷ 純資産計)			

端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

<退職給与引当状況 (単位:千円)>

要支給額	引当額	引当率(%)
51,281	51,281	100.0%

県の財政的関与の状況 (事業費補助・委託を除く)

(単位:千円)

区分	令和5年度	令和6年度	支出目的等
年間支出			
年度末残高			

法人名：

秋田空港ターミナルビル 株式会社

自己評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況			2 経営状況		
【令和6年度実績】 売上高：1,510百万円（前年度：1,394百万円、目標：1,228千円） 顧客満足度：75.9pt（前年度：77.5pt、目標：75pt） 直営売店売上高：668百万円（前年度：638百万円、目標：594百万円） ツイッターの発信件数：52回（週1回情報発信）（前年度：52回、目標：52回） イベント等の開催回数：5回（開港記念イベント、空の日祭り、空港クイズラリー、 絵画コンテスト、池田修三氏の作品展示） (前年度：5回、目標：4回）			【令和6年度実績】 当期純利益：185,719千円（前年度：154,974千円） 経常利益：279,551千円（前年度：244,590千円） 営業利益：274,698千円（前年度：217,439千円） 売上高：1,510,934千円（前年度：1,394,178千円）		
【自己評価】 売上高は、行動計画に掲げた目標の数字を大幅に上回った。開港記念イベントは、来場者数が約800人と引き続き好評であり、他イベントについても盛況となっている。令和6年2月に開店した新規テナントも好調な売上であり、カードラウンジの利用も含め、増収に向けて取り組んでいく。 前年度目標値を達成した顧客満足度については、引き続きお客様からのご意見について、CS委員会及び部内会議で随時情報を共有し、改善に向けて取り組んだ結果、目標を達成することができた。また、令和6年3月に策定したユニバーサルデザイン推進計画に基づき、中央エレベーターも完成し、お客様が安全・安心・快適に利用できる環境をさらに整え、引き続き、空港全体で満足度の向上を図っていく。			【自己評価】 売上高に関しては昨年を上回り、前年度比で8.4%の増となったほか、台湾チャーター便の継続運航による免税売店の購入単価増、国内売店の客単価増やカードラウンジの利用者増による増収と、省エネ対策等による経費削減により営業利益は過去最高となった。 県からの財政的支援、累積債務はない。		

所管課評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況			2 経営状況		
【所管課評価】 テナントの入れ替えや設備のリニューアル、プライベートブランド商品の開発など、稼ぐための基盤作りに積極的に取り組んでおり、高く評価できる。 顧客満足度調査も目標を達成している。ユニバーサルデザイン推進計画に基づいた整備も進んでおり、引き続き施設の利便性向上に取り組んでいただきたい。			【所管課評価】 令和6年度の経常利益は黒字であり、県から運営面に関する財政的支援は行っていない。累積債務もなく、経営は安定している。引き続き内部留保の積み増しに向けて、取り組んでいただきたい。		

委員会評価

総合評価	法人全体の取組・運営状況に関するコメント
A	行動計画に定める目標については全て達成しているほか、過去最高の営業利益となるなど、安定した経営状況であると評価できる。

【委員からの提言】

各種イベントの開催やインバウンドの増加への対応など、顧客ニーズへの対応力を高めることにより、更なる増収を期待したい。 顧客満足度に関しては、利用者満足度の更なる向上の観点から目標値の上方修正についても検討されたい。
--

委員会評価を踏まえた対応方針	法人の対応方針	所管課の対応方針
一年を通じてイベントを企画・開催し、空港にぎわい創出に取り組むとともに、ラウンジのサービスや直営売店の商品ラインナップを充実させ、利用者の増加と経営の強化を図る。インバウンドについては、免税店において、季節に応じた旅客のニーズを捉えながら、魅力的な商品を展開していく。 ユニバーサルデザイン推進計画に基づいたハード・ソフト両面の環境整備と、スピーディかつきめ細やかなサービス提供により顧客満足度の向上を図るとともに、今後の目標値の上方修正についても検討していく。		秋田空港利用促進協議会や自治体と連携し、国際線ターミナルでの通訳配置や出迎えの実施など、インバウンド対応を支援する。 空港が実施する環境整備等の事業について、実施状況を確認し、更なる利用者満足度の向上につながるよう適宜助言・指導を行うとともに、目標値の修正について検討を行っていく。